

ドイツ文学わき道散歩(3)

ドイツ文学とは関係ないが、芥川龍之介の短編に『煙草と悪魔』という作品がある。人間を陥れるための悪魔の罠を、人間が巧妙に欺き逆に悪魔を陥れる。悪魔の騙されっぷりが何ともおかしい話である。話の古今東西を問わず悪魔は時として滑稽な存在となるが、それはグリムのメルヒェンにも見られる。『土まんじゅう』などに代表される、知恵によって悪魔を退けなおかつ利益を得る話は、人間の方がよほど悪魔のようである。

さて、今回のお話に登場するのは、そういった笑える“悪魔まがいの人間”ではなく、紛れもない“悪魔のような女”。F. ヴェデキント作の戯曲『地霊』とその続編『パンドラの箱』の美しく非情で冷酷な女主人公ルルにはそんな言葉がよく似合う。本能のままに生きるルルによって次々と破滅していく男たち。彼女の非情さには、本物の悪魔も目を見張ること請け合いである。ルルは魔性の女の代名詞になり、この二作は“ルル劇”と呼ばれ今日に至っても各国で上演されている。欲望の勝利を扱った『地霊』に対し、ルルの末路を描いた『パンドラの箱』はそれまでの古い道徳教育を痛烈に批判したヴェデキントらしい作品だが、その過激な内容のため当時は発禁処分となった。

時を同じくして発禁の憂き目に遭った作家にA. シュニツラーがいる。鋭い心理描写に優れた彼の作品には映画化され評判となった『輪舞』をはじめ多くの傑作があるが、それらは彼自身がユダヤ人であることへの政治的圧力をも伴い、悉く処分された。ところで映画化されたドイツ文学と言えば忘れてはならない作品があるのだが、けれどもこれは、また、別のお話。

1999年度 ドイツ語学科卒業生 小林 ゆかり



今回はJ-BISCというCD-ROM媒体のデータベースを紹介します。J-BISCは正式にはJapan Biblio discといい、国立国会図書館の蔵書目録をCD-ROM化したものです。日本国内で発行されたあらゆる出版物は、法律により東京の永田町にある国立国会図書館への納付が義務づけられています。この制度により国立国会図書館には市販書籍だけではなく、官公庁の出版物など非流通の資料も数多く所蔵しています。J-BISCにはそれらの刊行物のデータも多数収録されており、検索項目も多岐にわたっているので、幅広い分野での資料検索ができます。

J-BISCは収録年次によってCD-ROMが違います。本学図書館では明治期から現在までの9枚のCD-ROMを提供しています。今までは館内のJ-BISC専用端末のみでの提供でしたが、2002年10月から学内のインターネット端末からアクセスできるようになりました。もちろん図書館内で設置しているインターネット用端末や自習室用ノートパソコンからもアクセスができますので、ぜひ試してみてください。

J-BISCを利用することによって、本学図書館の蔵書に加えてさらに資料収集の幅が広がります。本学図書館の購入希望図書制度や相互協力制度を利用する場合にも、J-BISCは有効な検索ツールとして役だってくれますので、OPAC(本学図書館蔵書検索)同様しっかり使い方をマスターして大いに皆さんの資料収集に役立てていただきたいと思います。

機械化推進委員会委員長 宮杉 浩